

花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツ博士のかくかくドド撮立ててくら

国立市立国立第七小学校

平成29年11月6日 NO.66 (466)



センブリ

花ちゃん 「モンタ^{はか}博士！三連休はどうしていましたか。わたしは、おうちの人と陣馬山^{ひと じんばさん}に行ってきました。お天気^{てんき}でとても気持ち^{きもち}良かったです。」

モンタ博士 「4週間^{しゅうかん}ぶりに週末^{しゅうまつ}がよいお天気^{てんき}になって、本当^{ほんとう}によかったね。」

花ちゃん 「頂上^{ちようじょう}でお弁当^{べんとう}を食べてから、てくてくしてたら、白くて^{しろ}かわいいお花^{はな}が咲いて^さいたんです。デジカメで撮^とったのですが・・・。」

モンタ博士 「どれどれ^み見せてごらん。ほほー。これはすごい植物^{しょくぶつ}に出会^{であ}えたね。」

オー君 「すごい植物^{しょくぶつ}？いったい何^{なに}を見つけたの。」

花ちゃん 「よく見^みると、むらさき色^{いろ}のすじが^{はい}入っていてとてもおしゃれでした。高さ^{たか}は

10センチくらいでした。オー君のために、スケッチもしてきたよ。」

モンタ博士「これは、センブリだね。よく見つけたね。」

オー君 「え！ドンぶり・・・？」

モンタ博士「ドンぶりではなく、センブリだよ。それにしてもよく見つけたね。このセンブリというのは、有名な薬草なんだよ。」

オー君 「え！薬になるの。何の薬なの。」

モンタ博士「とても苦くてね、胃のお薬になるんだよ。」

花ちゃん 「え！とても苦いんですか。」

モンタ博士「センブリというのはね、とてもとても苦くて、1000回ぶりだしても、まだまだ苦いと言われているんだ。」

オー君 「ぶりだす？って・・・どういうこと。」

モンタ博士「ぶりだすというのはね、ティーバッグのお茶のように、水に成分をとかし出すことだよ。」

オー君 「モンタ博士！苦いっていうけど、どのくらい苦いのですか。ぼく、ちょっと実験してみるね。それでは葉っぱを1枚だけちょいといただいて・・・。」

モンタ博士「あ！ちょっとまって！」

花ちゃん 「あ！ちょっとまって！」

オー君 「もぐもぐ・・・ゲーッ！ワーッ！オーッ！アーッ！ウーッ！ヒーッ！」

モンタ博士「あーあ。食べちゃった。」

花ちゃん 「あーあ。食べちゃった。」

オー君 「ゲーッ！ワーッ！オーッ！アーッ！ウーッ！ヒーッ！やっぱり、『良薬は口に苦し』だ！」

センブリのつばやき

センブリは秋の花。山の草原や明るい林の中などで可憐な花を咲かせ、目を楽しませてくれます。「良薬は口に苦し」の諺がぴったりする薬草で、その苦さは強烈で、ほんの僅かでも食欲不振や消火不良の時等、胃の薬になります。センブリは栽培がとても難しい野草といわれ、小さい草なので、量を集めるのも苦労し、高価な薬草だったそうです。そこで、いろいろな学者が集まり、その栽培方法を研究したそうで、そのうち、見事に量産できるまでになりました。しかし、このセンブリは少量でも効き目があり、たくさん作っても需要が伸びなくて、供給も少なく、結局は苦い思いをしたそうです。



センブリ (陣馬山)